

## 【経済学部講演会】

**地震を越える 日本の自信**

巨大地震の中に発想の転換と  
新鮮な政策を打ち出せ

**岩國哲人**

Tetsundo Iwakuni

バージニア大学経営大学院 / 客員教授

南開大学周恩来政府管理学院 / 客員教授

前衆議院議員・元出雲市長

## 〔講演日時〕

2011.05.19[木] / 14:30-17:00

経済学部講堂

2011.05.19[木]、経済学部講堂において、

岩國哲人氏をお招きして

経済学部講演会が行われました。

ここに講演いただいた内容を収録しました。

皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました、岩國哲人でございます。今日は、初めてこの彦根の中で皆さんにお話をさせていただくことになりました。本当にありがとうございます。

この講堂に入ってきてびっくりしたのは、この彦根というところは、井伊の殿様もそうですけれども、若い方も、少しお年を召された方も、みんなで勉強される、いい土地柄が残っているんだなと感銘いたしました。

出雲でも、60歳、70歳、80歳になっても勉強される方はいます。出雲市長になりましてから、私は年の数え方を出雲市長として変えました。65歳からは老人会。その65歳のお祝いをするときに、私が市長として初めての敬老の日9月15日にお祝いの言葉を述べるときに、会場の中を見ましたら、65歳の方が一人もいらっしゃらなかったのです。

私が小さいころの65歳の方は、本当におじいさんだな、本当におばあさんだな、そういう気がしました。もうそろそろ準備をしていらっしゃいました。いま、65歳で準備をする人は誰もいらっしゃいません。高齢化、長生き、そういう社会に変わりましたから、私は年の数え方を変えましょうと提案しました。

私は海外に20年いましたから、お正月になっても年を取ったことは一度もありませんでした。日本にいと、お正月になると必ず年が一つ増える。毎年一つずつ。そんなことをやっているから、いつのまにか昔の年と合わなくなってしまう。年の数え方を変えましょう。私が提案して、新しい年の数え方が始まりました。1年おきに年を取りましょう。そうすれば、昔の年とだいたい同じになりますから。そして皆さん、大きくなずいて、新しい年の数え方が始まりました。

ところが、問題が起きたのです。私は1年おきにと言ったのに、2年続けて忘れるおばあさんがいらっしゃるのです。ですから、私はルールを変えました。年は8掛け、気持ちは7掛け、こうしてください。そうすると、だいたい昔の年に合いますから、と。

次の日、老人会の会長、副会長が私のところにおいでになりました。「市長さん、老人会に青年部をつくりたいと思いますが、いかがでしょう」。青年というのは20代か30代。どこでも青年会議所というのは40歳で卒業ということになっていますから、びっくりしました。しかし、私はそういう発想こそ大変面白いと思いました。時代が変わってきたのです。そして、出雲市に日本で最初の「老人会青年部」が誕生しました。

「60歳から70歳は青年部、70歳から本会員、どうでしょう」。どうでしょうかと言われても、びっくりしましたけれども、日本で最初の青年部。名前も、老人会ではなく「慶人会」と変りました。

そして、出雲市では、「慶人会青年部」が、まちづくりの中心になってきています。60年間に蓄えた知識、経験、判断、人格、人脈、ゆとり。60年間、真面目に人生を生きてきた人に、神さまがくださる六つの宝。知識、経験、判断、人格、人脈、ゆとり。どなたもこの六つの宝を持っていらっしゃいます。その六つの宝をまちづくりに生かそう。それが、「慶人会青年部」の発想です。いまでもそれは続き、いま、全国の日本人たちの常識になってほしいと思っています。

今日はたくさん的一般の方にも参加していただきました。ここは珍しい会場だと思います。

私はさっきから窓の外を見ておりました。外の小鳥も私の話を聞きたいと、中に入りたそうにしておりました。昨年、モロッコで私が講演したときには、小鳥も中に入って聞いておりました、5羽ばかり。今日の小鳥たちは外で聞いていてくれるだろうと思います。

今日は1時間半の時間をいただきました。そこで、皆さんに私が見てきた世界、そして世界から日本を見れば、強さもある、弱さもありますが、この日本がどれだけ強いのかについてお話してみたいと思います。そして日本の本当の強さが試されるのが、今回の地震です。

昔から地震、雷、火事、親父といえます。いまは地震、津波、放射能と、怖いものがちょっと変わってきました。そういう新しい危機の時代に、日本がどれだけ強さを示せるのか。それをテーマとしてお話させていただきたいと思います。

## Ⅱ 日本の財政を変える

私は、経済の世界にちょうど30年間勤務しました。そして、ふるさとへ帰ってきてほしいと言われて、出雲市長に就任したのが1989(平成元)年。平成の時代に入って一番新しい市長として、私は出雲市長に就任しました。4年で私は市長を終えて、ニューヨークに残してきた娘のところに帰るという2人の娘への約束を守れなくて、少しでも長くという出雲市民の気持ちにこたえて、私は2年間だけ延長して、合わせて6年で退任いたしました。

出雲市長に就任したときに、新聞記者やテレビの皆さんが、華麗なる転身と書いていただきました。私は新聞記者やテレビの方に集まっていたいて、「華麗なる転身」というのは、給料が上がるか、肩書が上がる場合に使う言葉。私は、メリル・リンチという会社の副社長をしておりました。市長になって給料は10分の1に下がりました。そして、肩書が上がったと言ってくれた人は誰もいませんでした。だから、「華麗なる転落」だと言いました。私の人生は転落の人生です。

日本も、どこの国にも、通信簿があります。日本の通信簿というのは、経済は一流、行政、お役所

仕事はちょっとお粗末で二流、政治はもっともとお粗末で三流。「経済は一流、行政は二流、政治が三流」、これが日本の通信簿でした。

私は、一流と言われた経済の世界に30年、運に恵まれて、世界中を走り回っていました。そして、出雲市長に就任し、二流の世界に入りました。二流の世界を経験して、それが終わって私が入ったのは、三流の世界です。一流から二流へ、二流から三流へ、限りない転落の人生です。

私は学校時代、先生から、「人生というもの、いつも上を向いて歩くものだ」。私の人生は、いつも下を向いて歩いています。一流から二流へ、二流から三流へ。人生の歩み方を私は間違えたかもしれません。

しかし、一流の世界を見て、二流の世界に入るとき、お役所仕事の欠点がよく見えるものです。一流の世界を経験したからこそ、それが見える。そして、一流の世界も、二流の世界も両方見たからこそ、三流の世界の政治の欠点がよく見えたのです。世の中を見るためには、そういう経験の仕方もあるのだということを知っていただきたいと思います。

三流といわれた日本の政治が、ついに経済と肩を並べるときがやってきたのです。政治が一流になったのではなくて、経済が三流に転落してきたからです。初めて経済と政治は肩を並べることになります。あの強かった日本の経済は、どこへ行ってしまったのか。

私は中国で大学生に教えます。日本は、世界で一番、成功した共産主義の国だと言います。カール・マルクスは、どう教えましたか。お金には価値がない。労働にしか価値がない。それを一番着実に、忠実に実行しているのは、日本でしょう。お金には価値がない、だから、お金の利子を払ってはならない。ゼロ金利政策です。

今日、東京駅で私は福井元日銀総裁と久しぶりに会いました。日本は、お金が1年間働いても、お金は給料がもらえない国になってしまったでしょう。人間だけが給料をもらえる。お金は給料をもらえない。これは、カール・マルクスが、それが一番いいと言った社会、それを実現したのが日本なのです。

皆さん、おかしいと思われたら、お金を銀行に預けてください。1年間、皆さんのお金が銀行で働いて、幾ら給料をもらって帰ってくるか。手ぶらで帰ってくるのです。手ぶらどころか、往復のタクシー代が赤字です。お金が給料をもらえない。これが理想の共産主義というのです。

ところが、中国でもロシアでも、お金の給料を払っているのです。こっそりと。日本は堂々とゼロ金利政策。世界で一番成功している共産主義の国は日本だと言うと、北京の大学生たちは、目をぱちくりとして、びっくりして聞いています。日本はそういう国になってしまった。しかし、これからどこを変えていけばいいのか。それについてお話ししたいと思います。

まず、お金の話から、皆さんにしてみましょう。日本はどこを変えていけばいいのか。日本には「政経手術」<sup>セイケイシュ</sup>が必要だと、私は思っています。セイケイシュ<sup>ジュツ</sup>というのは、お顔の整形手術ではなくて、政治の政に経済の経、政と経を一緒に変える。政治も経済も一緒に変える。これを「政経手術」というのです。いま私たちは、日本の政経手術を断行しなければならぬと思うのです。

まず1番目、私は、国会でも、小泉さんとも議論しました。いろいろな総理大臣と予算委員会の中で、いつも議論してきました。国債が多すぎる。借金が多すぎる。皆さんもそういう新聞記事をご覧になったでしょう。日本は世界で一番、その国の経済規模を示すGDPの2倍もの借金をしている。

500兆円の約2倍の1000兆円。こんな国は、世界のどこにもありません。どこの国でも、1年間の稼ぎの4割か、5割か、7割か、その範囲に借金は取まっている。日本だけは、よその国の2倍以上の借金をしている。

借金をするから利子を払わなくてはいけない。利子を払うために、また借金をする。1年間の、日本の借金の金利を払うために、皆さんの消費税1年間10兆円が全部金利の支払いのために消えていくのです。

だから、働いても働いても、楽にならない。税金を払っても払っても、安心できない。年金を払っても払っても、消えたり取られたり。いつの間に日本という国は、こういうおかしな国になってしまったのでしょうか。

借金をしない、国債を発行しないことです。借金をしないで、どうやるのか。自分のお金を発行することです。政府はお金を発行します。皆さんのポケットの中に、一万円札、千円札、持っていらっしゃる方、そこには日本政府と書いていないでしょう。そこには、日本銀行、けさ私がお会いした、福井元日銀総裁、日本銀行に委託をして、お札だけはそこで印刷してもらっているのです。しかし、皆さんの財布の中の500円玉や100円玉を見てください。それは日本銀行とは書いてありません。それは、日本政府が直接発行しているのです。

どこの国でも、政府はお金は発行します。ただ、紙幣だけは、日本橋にある日本銀行に印刷をお願いし、そしてその印刷したお金をもらうために、借金を、国債という証書を渡して、代わりにお金を受け取って、それで役人の給料を払ったり、学校の建設費を払ったりしています。そういうことをやりますから、国債はどんどんたまって900兆円。その1パーセントだけでも、もう9兆円です。もう国債の印刷をやめるべきです。

では、足りないお金はどうするのか。足りないお金は、30兆円、40兆円の国債を発行する代わりに、日本政府が40兆円に相当するお金を発行して、それで、公務員の給料や、道路や、必要なお金はそれで賄う。

借金は増えません。金利も払いません。そして、インフレにもならないように、国債と同じ金額で止めます。国債でやるから、金利負担も増えて雪だるま国債。そして、そのまた利子を払うために利払い地獄、そういう恐ろしい状況への道を断つために、自分のお金を堂々と発行すること。

人間の体で例えれば、いま日本は金欠状態、貧血状態なのです。貧血のときに、お医者さんは何をしますか。必要な血液を輸血してくれるでしょう。輸血してくれるから顔色がよくなる。食欲が出てくる。そして、健康になる。

日本にいま必要なのは、借金地獄ではなくて、新しい紙幣を輸血することです。金利はいらない。そして、元気になる。金回りがよくなる。その勇気を持ってないから、いつまでも借金という、きのうまでの道を歩き続ける。日本はよその国に比べて2倍以上の借金をしている。借金を減らすために、輸血で一生懸命働けるように、そういう体に改造していくということです。

そんな前例はあるのか。あります。誰かというと、徳川家康がやったのです。徳川幕府というのは、皆さんご承知のように、強い軍隊を持っていました。しかし、お金は持っていなかったのです。徳川家康の金びつは、空っぽでした。その空っぽの金をどうしたか。

江戸時代、徳川時代の最初は大阪で銀貨を発行していました。そういう銀貨を大阪商人が持っていた。そして、民間では全てその銀貨で決済していました。徳川家康は、「銀貨」に対抗して「金貨」をつくったのです。

皆さん、金貨はご存じですね。銀の代わりに金。そして、金貨も銀貨も同じ価値がある。金貨の方が、むしろ価値がある。それは、徳川幕府の権威と信用を母体にして、佐渡の金山から持ってきた金貨、それで新しい通貨をつかって、金貨と銀貨が両方回ったから、鎖国時代の日本で、あれだけ江戸の経済がどんどん発展していったのです。インフレにはなりません。そして、借金地獄も起こりませんでした。

なぜ、徳川家康の知恵を、いまの日本に適用しないのですか。日本の「きんさん、ぎんさん」の時代、金貨と銀貨が両方流通した。同じことを日本の政府は勇気を持ってやることです。

勇気がない。知恵がない。そういう政府が、皆さんの生活を不安にしているのです。働いても働いても楽にならない、税金を払っても払っても安心できない。年金も消えたり、取られたり、減ってしまったり。そういう日本にストップをかける勇気と知性を持った政治が必要です。徳川家康のまね一つさえもできない、いまの政府に何の価値がありますか。

これ以上激しく言うと、まるで選挙演説をやっているみたいになりますから、これでやめておきますけれども、そういう三流の政治、四流の政治が、いかに一生懸命働いている人々の生活を不安にしているかということを知っていただきたいと思います。

前例がないわけではないのです。400年前に日本の中で堂々で行われた、「金さん、銀さん」時代を再現することです。

私は中国にもよく行きます。中国の山西省。紙幣をつかって、中国の通貨制度をつくったのは、山西省の商人です。

山西省というのは、関羽という『三国志』で有名な強い侍がいますね。男は強く、そして女性は中国で四大美人と言われているうちの二人は、山西省

の出身なのです。楊貴妃、貂蟬。四人の内二人です。中国の美人の5割は山西省にいるということ、ちょっと言い過ぎですけれども、男は強くて、女性は美人。

そういうところがちょうど近江商人と同じように、軍隊なしに、中国を経済で支配した。それは、山西省というところがお手本になっています。

いまの日本の貧血状態、金欠状態を直す「政経手術」を早くやるべきです。

### III 消費税と年金を変える

そして2番目、消費税。消費税は上げなければなりません。消費税を上げるというと、皆さん嫌な顔をされます。私もそれはよく分かっています。しかし、世田谷で、横浜で、マイクを持って駅前街頭演説をやって、私の話を5分聞いた奥さんは、結論として、「早く消費税を上げてください」とおっしゃっています。

私は何を言ったのか。消費税は、2年に1パーセントずつ上げていきます。2年に1パーセント、2年に1パーセント、10年間に5回、5パーセント上げて、いまの消費税は5パーセントですから、10パーセントで打ち止めします。10年かかって10パーセント。

そして、消費税は、消費税を払った方には全部お返しします。消費税の名札は裏返すと年金と書かれています。消費税を払った人には、年金となって皆さんの財布へお返しします。一月月に7万円ずつ。消費税を7万円以上払うお金持ちの方もいらっしやいます。しかし、その人も7万円。7万円以下の買い物しかしていない。その人にも7万円差し上げます。

私の年金というのは、1階と2階部分がある。1階部分は、誰にもみんな7万円ずつ差し上げます。2階部分は違います。一人7万円、夫婦で14万、ちょっ

と足りないと思う方だけは、努力して2階に昇る。2階には3つの部屋があります。1万円の部屋と2万円の部屋と3万円の部屋です。

1万円の部屋というのは、25歳から65歳までの40年間、毎月1万円を払った人は、65歳になったらその10倍を受け取ることができます。2万円ずつ払った人は20万円ずつ、3万円ずつ払った人は30万円ずつ。簡単でしょう、幾ら払ったら幾らもらえるか。

日本の年金で、私が一番嫌なことがある。退職したときの給料の52パーセントに相当する年金を差上げます。この中に皆さん、52パーセントが幾らになるか分かる方、そんな人はいらっしやらないでしょう。若い30代、40代の人は余計分かります。

金額で言ってほしい。金額の方が分かりやすいでしょう。何万円と言われた方が、実感があります。何万円と言え、あ、これだけ使えるのだと、何パーセントなんて言われると、お金は来ないのかと。

だから、1階の人は7万円、2階に行った人は10万円コース、20万円コース、30万円コース。お父さんが遺産を残してくれたとか、いい収入の職業が見付かった人は、2階の1万円の部屋から2万円の部屋に移ってください。

2階では、「こだま」から「ひかり」、「ひかり」から「のぞみ」に乗り換えるように10万円、20万円、30万円と乗り換えたり、そして、1階部分と合わせて皆さんの生活は保障されます。そういう分かりやすい年金制度に変えたいと私は思います。どうでしょうか。

横浜でも、渋谷でも、デパートの前でも、奥さんたちは私の演説を聞いて、「消費税を払うたびに、誰にも無料・・・」、無料という言葉で、奥さんの足がぴたっと止まります。その上、「女性には7年分のおまけ付き・・・」。おまけという言葉を知って、

奥さんのもう1本の足がぴたっと止まり、足が2本とも止まる。

おまけというのは、誰にも10パーセントの消費税を負担していただきます。そして、誰にも7万円をお払います。しかし、男性と女性は違うのです。男性は、65歳から79歳まで14年間、年金を受け取ることができます。男性の平均寿命が79歳だからです。女性は平均寿命が86歳。男性は14年間受け取って、奥さんは21年分受け取ります、65歳から86歳まで。消費税は同じだけ払って、ご主人は14年分、奥さんは21年分、はっきり言って不公平です。

しかし、世界で一番女性が安心できるためには、日本でこの年金制度を実現することです。ご夫婦一緒に努力して、1階建ても2階建ても払う。そして女性には、男性の5割増しが支給される。それを聞いた途端に奥さんたちは、「岩國先生、早く消費税を上げてください」。自分の方が得だということが、よくお分かりになっているのです。

だから、私はそのとき言いました。奥さん、私が提案している、それは、そっくりそのままはなっておりませんが、民主党の年金政策の一つの基礎になっています。この新しい年金ができれば、安心して働ける、安心できるから元気が出る、元気が出るから日本の経済がよくなる、そうですね。日本人は、安心して力が出るのです。力が出ると、みんなが経済をよくすることができる。

長くなりましたけれども、女性には7年分のおまけが付いています。アメリカとイギリスは、男性に比べて女性は3年間だけ長生きをします。ドイツやフランスは、女性は男性に比べて、ご主人に比べて4年間だけ長生きをします。日本の女性は、なぜか7年も長生きされるのです。それだけ日本では女性が大切にされているということです。

ちょっと実感がないというような顔をしておられる方がいらっしやいますけれども、しかし、数字の

上、統計の上では、日本の女性は世界で一番長生き。男性に比べて長生きしているのは、女性を一生懸命幸せにするために、男性はそれだけ苦労している。だから男の人は、7年分だけ奥さんに長生きの保障をしたい。しかし、収入がなければ長生きもできませんから、同じ10パーセントで女性には7年分のおまけを差し上げる。お分かりになりましたね。

だから、その奥さんに言いました。賛成していただいてありがとうございます。問題は、その横に立っていらっしゃるご主人です。ご主人を説得してください。あなたも、私を愛しているなら、私を大切にすることがあるのなら、岩國さんのあの年金に賛成しなさい。

どうしても、ご主人が賛成しないなら、最後にこう言ってください。あなたも悔しかったら、あなたも長生きしなさい。そうすれば、同じだけもらえるわけですから。今夜中に説得してください。あした投票日ですから、今夜中に必ず、ご主人を説得してください。そう訴えて私は当選させていただきました。

10パーセントの消費税、そして、誰にも7万円、2階建てが欲しい人は、1万円コース、2万円コース、3万円コース、三つあります。そうすれば、その10倍が受け取れます。そういう分かりやすい年金方式。これなら若い人にも分かりやすいから、年金の支払いを忘れていたことはありません。忘れた人は自分が損するだけです。お分かりですね。分かりやすい。みんなが払ったら得をする。

アメリカはどうなっているのか。日本は、60歳を過ぎると自分の年金がどこへ行ったか、一生懸命探します。消えたのか、取られたのか。65歳までに年金探しをしなければならぬ。

私は、アメリカでも勤務していましたから、毎月、給料の中から年金のお金を払っていました。その

たびに嫌だなあと思っていました。アメリカに住むわけでもないのに、毎月こんな社会保障税とか、年金税とか、まあ、しかし、人事部はちゃんと天引き分を取りますから、しょうがないと。アメリカの年金のこともなんか忘れていました。

65歳になったときに、私のところにアメリカの政府から手紙が来たのです。あなたは65歳になりましたから、すぐに年金を受け取る手続きをしてください、と。

いいですか、私は世田谷に住んだり、出雲に住んだり、そしてまた横浜に住んだり。それなのに、ちゃんとアメリカの年金は、私を探しに来るのです。アメリカでは、「年金が人間を探す」のです。日本では、「人間が年金を探して歩く」のです。大違いでしょう。人間が年金を探さなければいけないというのと、忘れていても年金が人間を探しにくる。そういうシステムに私は変えたいと思います。

だから、出雲市長のときに、私はこういうカードをつくりました。誰にも無料で発行します。自分の住所、血液、アレルギー、持病、かかりつけのお医者さんの名前、電話番号、ファクス、そういうのが全部この中に入っています。

全国どこの郵便局に行っても、うっかり現金を持って出ることを忘れていても、これで引き出すこともできます。そして、具合が悪くなったら、どこへ行っても、かかりつけのお医者さんとすぐ連絡が取れます。出雲大社のお守り札と同じものを、こういうカードにしたのです。

出雲大社のお守り札は、命を守ってくれましたけれども、お金は払ってくれませんでした。これは、お金も出る出雲大社のお守り札なのです。こういうものができれば、これからは、皆さんの年金が消えたり、盗られたりすることはありません。そういう安心できるカードです。

## IV | 日本はエネルギー大国へ

次に、いま日本が抱えている、この大震災、こういう地震に、津波に、放射能、これをどうやって乗り越えることができるか。というテーマについて、お話ししましょう。日本に電気が、エネルギーが不足しているのではないか。そこで私が皆さんにお話しすることは、まず、サマータイムを日本でも実行することです。

世界の先進国は、アメリカもイギリスもフランスも全部、夏になると、もういまはサマータイム。1時間早起きして、1時間早く終わって、そのために電力は少なくて済む。もう何十年も前からやっています。日本は、先進国といいながら、先進国でサマータイムをやっていないのは日本だけなのです。

日本には、あふれるほど石油がある、あふれるほど石炭がある。それならば、無駄遣いもいいでしょう。世界の先進国の中で、よそから石油を買ったり、石炭を買ったりして、そして、電気を起こさなければいけない。エネルギーが一番少ない国が、サマータイムをやらないで、朝1時間遅く起きている。

正確に言うと、もう一つの国があるのです。隣の韓国もサマータイムをやっていない。本当は、日本と韓国は1時間の時差があるのです。しかし、考えようによっては、日本と同じ時間にセットしていますから、韓国はサマータイムを何十年も前からやっていることになるのです。

しかも、夏だけではなくて、一年中サマータイムをやっているのです。世界の中の優等生です。日本と同じ時間を使うことによって、韓国人は日本人と同じ時間に起きている。だから、あそこでは、電力の節約ができています。

韓国を代表する会社で、最近有名になっていますけれども、サムスンという会社。サムスンの社長も会長も、私は何十年も前からよく存じ上げていま

す。あのサムスは、サマータイムではなくてサムスタインというのをやっているのです。

サムスタインというのは、朝1時間早く出勤するのです。8時半出勤をサムスの社員は7時半、ラッシュアワーの前に出勤する。そして、夕方、ラッシュアワーの前に、1時間早く家に帰るのです。それだけ体が楽ですから、能率が上がって、東芝や日立の10分の1の小さな会社が、いまは、とうとう東芝と日立を合わせたぐらいの会社になってしまったのです。これがサムスタインと言われています。

いいですか。韓国は1年中サマータイムをやっている。その上にサムスは、さらに1時間、極端に言えば、東芝や日立の社員よりも2時間早く出ているということでしょう。こういう会社が強くないはずがないのです。知恵です。やる気です。そういう日本を追いかけるために、サムスタインは大きく貢献しています。とうとう世界一の会社になってしまったのです。

サマータイムを皆さんが実行したら、それだけ、福島原発の1基分はなくすことができるのです。それだけ大きい。

2番目、自動販売機は、私はやめたいと思います。自動販売機があれば便利です。どこでもいつでもある。使う人もあれば、全然使わない人もある。人口当たりの自動販売機が世界一断トツで多いのは、日本なのです。どこへ行っても自動販売機があるでしょう。

夏、暑いときなのにホットウォーターをつくってみたり、寒いときなのに一生懸命冷やしてみたり、無駄な電力の象徴は、日本が自販機大国と言われていること。自販機が多すぎる。自販機をやめれば、原発2基をなくすことができるのです。少しばかり不便になるかもしれませんが、自販機がなくなったからといって、人が死ぬわけではありません。恐れなくて、これも実行すべきです。

私は出雲市長になったときに、お酒の自販機を廃止しました。まず、お酒の自販機はやめましょう。お酒の自販機は、お医者さんにアルコールを飲んではいけませんよと言われているおじさんが朝、若いお嫁さんに、「いまからおじいちゃん、散歩に行ってくるからね」と。それは、自販機でお酒を飲みたいから散歩に行くのです。そして、小学生や中学生までが、こっそりと自販機でビールを買ってきて校庭の隅で飲んでいたという事件もありました。

私はそのたびに、自販機というものを廃止しましょう。まず、自販機があるから、缶ビール2つを、ちゃりんと音をさせて缶ビールだけ買って、店の中に入らないで、お客さんが出て行く。それも商売のやり方でしょう。

しかし、300軒の出雲市の中の酒屋さん全部集めて、私は訴えました。本当に商売になるのは、中へ入っていただいて、缶ビール2本だけじゃなくて、おかみさんが、「ビールもいいですけど、おいしい地酒も入っていますよ」と、にっこり笑ってお酒も勧める。「おつまみはどうですか、お子さんにジュースはいかがですか」。そういう会話と笑顔で売上が増える。

福は内。福は内と言っていますけれども、お客さんという福を逃がしているのは自動販売機です。そうでしょう。缶ビール2つで、店の中に入らないで帰ってしまう。もったいないじゃありませんか。せっかく店の近くまで来てくれたのに、中へ入ってもらって、店のおかみさんも、商売のやり甲斐があります。地酒はどうですか、おつまみ、そして、お子さんにジュース、そして、笑顔と会話のお蔭で売上が増える。そのために、これを廃止しましょう。そして、出雲市はお酒の自販機は全部禁止しました。5年間に少しずつ減らして、平成6年、出雲市の中から、お酒の自販機は全部消えていきました。

世界中で、「お酒を機械に売らせている」のは日本だけです。恥ずかしいことです。国連、WHOか

らも警告された。平成元年にそういう警告をされている。返事もしていない。注意されたら返事ぐらいすべきでしょう。

国会で私はこれを取り上げました。いつ返事したのか、「返事はしておりません」。そういう無礼な国になってしまったのです。自販機お酒の飲み過ぎ副作用で、そういう無礼な国になってしまったのでしょうか。

出雲市は、平成6年に、お酒の自販機は全部撤廃しました。こういうエネルギー危機ですから、自販機を撤廃することによって原発2基を消していく。これからはそういうエネルギー対策も必要だと思います。

もう一つ、エネルギーというものは、日本には、石炭や石油はありませんけれども、素晴らしい知恵があるのです。どういう知恵があるのか。それは、皆さんのカレンダーを見てください。カレンダーの中に、その秘密が書いてあります。

皆さんに、私が日本の新しいエネルギーの答えをお教えます。

まず、これです。「日」と書いてありますね。太陽エネルギーです。太陽の光は今日も皆さんとふりそそいでいます。皆さん、ちょっと太陽を無駄遣いしているではありませんか。木は喜んでいます。緑も喜んでいます。しかし、それだけでもまだ余っているのです。この余っている太陽を太陽エネルギーとして活用する技術を、シャープや、いろいろな会社がつくっています。

無料で毎日毎日、宅配で皆さんの玄関にも庭にもやってくる、あの太陽を使うこと。これは太陽エネルギー。日本は「日」出ずる国と言われるぐらい、太陽に恵まれています。これを使いましょう。

その次に、皆さんにカレンダーでは、こういう字が出ていますね。「月」。月というのは、言い換えれば、きれいな空気がたくさんあります。お日さんが

沈んでも、24時間空気は動き、風が動き、「風月堂」という言葉さえあるように風がエネルギーを起してくれる。風のエネルギーがあります。そういう日本のこの空気が、風となって皆さんにちゃんとエネルギーの贈り物をしてくれる。風力発電も、これから大いに活躍してくれるでしょう。

次は「火」。石炭や石油、あるいは木。しばらくの間は、この火のエネルギーも使わなければなりません。これは、いままで火力発電というかたちで使ってきましたから、この技術はすでにできています。

次は「水」です。水力発電、これもやっていましたね。しかし、その水力発電だけではなく、海のエネルギーです。水は、海の中にたっぷりとあります。それは波のエネルギーになっている。波のエネルギー、潮流のエネルギーも、無料で日本に配達されています。自然が皆さんのところへ、これでもか、これでもかと送ってくれるエネルギーをしっかりと使うことです。

そして「木」。木のエネルギー。バイオエネルギー。木材を燃やすだけではなく、そういう木材をうまく消費していけば、木からもエネルギーが生まれてきます。毎日のように新聞で新しい技術が紹介されています。

そして、「金」。日本にはそういう技術を開発するだけのお金があるのです。そういうお金を優れた大学の先生たちや、あるいは研究所に使わせることによって、世界で一番優れた自然エネルギーを生み出す。お金も大切な日本の財産です。

最後は「土」。土の中から、土の下から。地球の中に、日本には温泉がたくさんあるでしょう。温泉がたくさんあるということは、あれだけ熱いエネルギーが下にたまっているということです。そういう地球の中から掘り出す、海の底から掘り出す。まだまだここは、使い切るにはとても使い切れないぐらい

に、たくさんのエネルギーが土の下に眠っているということです。

いいですか。皆さんのカレンダーを、これからこういう思いで見てください。見るだけで、元気が出てくると思います。日曜もあれば月曜もある。火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日。毎日毎日自然のエネルギーをいただける。

日本は、そういう点では非常に自然エネルギーに恵まれている。そういう意味で、決して私は自信を失うべきではないと思います。いままで使わなかった、ほとんど使っていない、まったく使っていないエネルギーが、日本の上にも下にも周りにもたくさんある。決して日本は弱い国ではありません。エネルギー小国ではないのです。エネルギーをたくさん、いろいろなところに、いままで隠してきただけの話です。

そういう、奥さんのたんす預金のように隠してきたエネルギーを、これからしっかりと活用することによって、地球も長生きできます。環境にも、人間の健康にもいいのです。そういう新しい社会に進むべきではないかと思えます。

「日月火水木金土」と、お渡しした資料に書いてありますけれども、その一つ一つを思い出しながら、まだ使っていないエネルギーをしっかりと日本が使い、そして豊かなエネルギーを、これからの生活に役立ててゆくべきだと思います。

## V | 健康で快適な道に変える

もう一つは、道路の使い方です。民主党が訴えていますね。高速道路は無料にする。あれは、私が菅さんと約束した。菅さんは、私の2つの条件、農業を大切にすることと高速道路無料化を実現することを約束したから、私は菅さんを5年前の民主党の代表に応援しました。国土交通委員会でも提案しました。

高速道路、皆さんはいろいろなご意見がおありでしょう。料金を払った方がいい、払わない方がいい。結論を言いますと、高速道路にお金を払っていないアメリカ、ドイツ、イギリス、そういう国は、国の隅々まで緑が豊かです。高速道路があるから、そして、地方が豊かになるから、地方がさびれていくことがないのです。

人間の体で言えば、毛細血管。地方の人を手や足だと言っただけではいけませんけれども、心臓の回り、胃の回りだけではなくて、手足が十分に、小さい日本だからこそ、五体健全。そのためには、道路という血管を使って、栄養をどんどん送り込んで、そして地方の野菜や魚が新鮮な間に大阪へ、京都へやってくる。だから、小さな体だけれども、血の巡りがいい、金の巡りも頭の知恵の巡りもいい。そういう国にするためには、この道路という血管、毛細血管を無料にすることです。

アメリカ、ドイツ、イギリスは、みんな税金で道路をつくっています。日本も同じですね。税金で道路をつくっていますから、税金を払った人には無料です。日本はどうですか。皆さんの税金で道路をつくっておいて、税金を払った人から、また料金を取っているでしょう。「税金と料金」の二重払い。おかしいではありませんか。

余談ですけども、私は自動車の運転免許証を5つ持っています。アメリカ、フランス、イギリス、日本、国際免許。ですから、少々交通違反しても、一つなくなっても、あと4つ残っています。まあ、そんなことはあまり言っただけではいけませんけれども。そのように、世界中の高速道路を私は走ってきました、運転することは好きですから。

アメリカでは、税金を払った人は、みんな無料。無料だから、「フリー・ウエー」と言っています。日本は料金が高いから、「ハイ・ウエー」と言っているでしょう。それぐらいの英語、皆さんもお分かりで

すね。アメリカは無料だから、フリー・ウエーと言っている。日本は料金が高いから、ハイ・ウエーと言っている。そこに違いがあるのです。税金を払った人はみんな無料にすべきです。

そして、特に健康の時代には、これが大きな役割をします。あのCO<sub>2</sub>、排気ガスを皆さんのところへ、町の中を道路が走って、寝ている間に、皆さんの枕元に排気ガスがやってくるでしょう。玄関に。皆さんの庭に。誰も排気ガスを配達してくれと注文した覚えはないのに、いつの間にか、排気ガスがちゃんと庭先に、玄関先に。

あのCO<sub>2</sub>を欲しがっているのは、人間ではなくて森や木なのです。山はCO<sub>2</sub>を吸って酸素を出しているでしょう。山が欲しがっているものを皆さんが横取りしているから、日本はおかしいのです。もうCO<sub>2</sub>の横取りはやめましょう。山の方へ送って、高速道路を山のそばに走らせて、山の木や森を喜ばせてやるのです。皆さんは健康になる。山は緑になる。そして、地球は喜びます。そのために私は高速道路を無料にした方がいいと思います。

日本にはいま、料金所が1200あります。あの料金所1カ所、1年間に1億円かけています。あの料金所があるために、あそこに排気ガスが余計に出ます。

また徳川の江戸時代に帰ります。私は国会で演説しました。高速料金無料化、それを一番最初に言った国会議員は私です。衆議院の本会議で、こういう壇上に上がって演説しました。

日本の歴史をずっと見ると、平安時代も、奈良時代も、道路を歩いたからといって、料金を取った歴史はありません。日本の歴史の中で、料金所を設けたことは、一つもない。徳川幕府は、東海道から山陽道から中央道から、大事な道路をいっぱいつくったのです。

金貨を発行して、日本を貧血病から救い、その上にいろいろな道路をつくって通行料をとらずに

血管の流れをよくし、日本を血行障害から救ったのです。

徳川幕府は全国の大名に、通行料金を一切取ってはならないと命令しました。全国の大名はよく言うことを聞いて、江戸時代に通行料金を払った人は一人もいませんでした。一部、山の方では通行料金を取った人がいます。それは山賊とよばれたのです。私は、これと同じことを国会で演説したのですよ。

最近の政治家の中で、もう一人、その約束をした人がいます。その人は、約束だけして、実行できなかったのですが、田中角栄という人です。田中角栄も、いろいろないい発想を持っていました。通行料金を30年間払ってください、30年間通行料金を払ったら、その後は無料にします。田中角栄はそれを約束したのです。30年がやってきました。いつ。6年前です。いまでも取っているでしょう。田中角栄が言ったのは正しい。徳川家康がやったことは正しいのです。

江戸時代に関所というものがあって、50の関所があった。しかし、関所はありましたけれども、関所で通行料金を取られた人は誰もいませんでした。明治維新が始まったとき、あの関所をなくそうということで、関所はなくなりました。代わりにできたのは、1200の関所です。そしてそこで通行料金まで取っているでしょう。私はそれを撤廃して、1200の老人ホームに、毎年1億円ずつ寄付を差し上げる。料金所のために1億円を使うことはやめましょう。老人ホームに差し上げる。

では、あそこで働いている人はかわいそうじゃありませんか。そうですね。職を失います。その人たちは、老人ホームで働いていただく。朝から晩まで排気ガスに囲まれて仕事をする方がいいのか、朝から晩までお年寄りの笑顔に囲まれて仕事をする方がいいのか。排気ガスがいいか、笑顔がいいか、答えは明らかです。

ぜひ皆さんも賛成してください。地球の健康のために、皆さんの健康のために、あの働いている人たちの健康のために、そして、島根県の魚が早く大阪へやってきて、そして、早く漁師さんが帰って、また仕事ができるように。新鮮な果物や野菜が、皆さんのところへ山形からでも、福井からでも、北陸からもやってくるように。

小さな日本にそんなに関所は要りません。中国との競争に負けているのは、あの1200の関所があるから、野菜や果物が新鮮ではないものがやって来て、その上、多くの時間が余計にかかるから、働く農家や漁師の人の収入も減っているのです。小さな日本で、よその国よりも新鮮なものが食べられるように、「小さな日本を大きく使う」、あの高速道路を生かすべきだと私は思います。皆さんは、どうお考えでしょうか。

## VI | 世界に挑戦した「義・利・人・情」

今日は、この滋賀大学の中で、経済のことについてお話ししましたけれども、近江商人という伝統があります。私は経済の世界に30年いましたから、いろいろな優れた方から学ばせていただきました。

経営というのは、「義・利・人・情」。皆さんは「義理人情」とよくおっしゃいますね。私の書いている「義利人情」は、字が一つだけ違っているでしょう。これは、ミスプリではありません。私は分かっている字を変えております。

1番目は正義の義。2番目は利益の利。企業には利益があるから、会社は給料を払える。そして3番目は、人情の人、人間性のある経営が必要です。最後に情、情報化社会ですから、情報を早く入手する。そして情報をうまく活用する。「義・利・人・情」、この4つの文字をしっかりと守っている。その人たちを私はずっと見てきました。

まず1番、正義の「義」。言ったことは必ず守る。私は、日興証券にいたとき、国際部でいろいろな会社のお手伝いをしました。大阪では関西電力、大阪ガス、武田薬品、伊藤忠、塩野義、藤沢薬品、積水化学、積水ハウス、旭化成、シャープ、松下、松下電工、三洋、久保田鉄工、日東電工、住友電工、大和ハウス、住友銀行、日本生命、そして京都の京セラ、ワコール、村田製作所、オムロン立石、たくさんの会社を私は訪問し、そして、その会社が必要な30億、50億、100億、150億というお金をアメリカで、あるいはヨーロッパで調達するのが私の仕事だったのです。

27歳のときに、道修町の武田薬品。私は大阪の仕事は好きです。大阪で生まれ、そして曾根崎小学校へ入学し、そして父がなくなったために、戦争の真っ最中に母の郷里の出雲へ疎開しました。曾根崎小学校を卒業することはできませんでした。しかし、出雲の小学校は卒業しました。自分の生まれた大阪で、お父さんお母さんと一緒に家族がいた、その大阪をいつも私は思い出します。

社会に出て、東京の仕事は嫌だということではありません。東京の仕事は誰でもやれます。しかし、私は大阪が好き。だから、大阪の会社を特別にたくさん担当して、大阪の会社はほとんど私がお金を調達し、工場をつくり、その工場が大阪の人の働く場所をつくってきた。その中の一つが武田薬品でした。

皆さん、アメリカのケネディという大統領を知っていますか。有名な、優れたケネディ大統領。そして、ああいう悲惨な亡くなり方をされましたね。あのケネディ大統領は、優れた大統領でしたが、一つだけ大きな欠点があったのです。経済が分からなかった。経済政策ができなかった。

日本が攻めて、アメリカが守って、1960年代のそういうときに、ケネディはアメリカのために素晴らし

いことを考えたのです。ヨーロッパや日本からアメリカの会社を守るために、お金の壁をつくったのです。ベルリンの壁と同じようにお金の壁をつくって、日本の会社の資金調達を難しくする。そういう城壁をつくって、アメリカの会社を守ろうとしたのです。

日本の会社は困りました。いろいろな会社が、ソニーも、日本通運も住友金属も、アメリカで資金を調達し、そしてそれを発展のために使った。それができなくなった。どうするか。ヨーロッパに行くことを私たちは奨めました。ヨーロッパに行きましょう。ニューヨークがなかったらロンドンがある。

あの大きなヨーロッパで、アメリカのドルを使って、それがユーロ・ダラー、ユーロ・ドルです。そのマーケットを十分に利用して、アメリカの金に頼らないで、ヨーロッパに流通しているドルを使って武田薬品が社債を発行する。そういう日興とモルガンの提案を私が、当時の社長武田長兵衛さん、会長の森本さん、財務部長で取締役の木山さん、3人の方に説明しました。

それは、昭和38年、1963年のことです。新しい制度の中で、道修町に行って、若冠まだ27歳の私の話を武田長兵衛さんはじっと聞いておられました。2回目、また私は林専務と共に説明しました。そのとき、武田長兵衛さんは、英国の大学で勉強された方だったのですけれども、「林さん、岩國さん、今夜、大阪の吉兆で夕食しましょう」。私たちを招いていただいたのです。

そしてその「吉兆」で、武田長兵衛さんはこう言いました。「日本を代表して、ヨーロッパで第一号として、ユーロ・ドル建て転換社債を発行する。武田薬品は二つの約束を必ず守ります。」

一つは、ヨーロッパの金融機関や投資家から、日本の財務諸表は違っているから判断しにくい、アメリカ式の財務諸表に全部組み替えてくれという要求がきていました。難しい仕事です。誰もやっ

たことはありません。しかし、武田薬品はそのような手間暇をかけても、外国の人に分かってもらえるような診断書、財務諸表をきちんとつくります。それを必ずヨーロッパの銀行や投資家に説明してください、と。

もう一つ、武田薬品がトップバッターで出る以上は、武田薬品が失敗したから、後から来る計画をしていた日本の会社が資金を調達することができなくなった。そういうことを言われないように、武田薬品は全力を挙げて、武田薬品のために投資したお金は損することがなかったと、外国の投資家や銀行が必ず満足するような結果を見せます。それも、あなたからきちんと説明してください、と。

武田長兵衛さんは私たちにこの二つの約束をされたのです。これは素晴らしいことです。自分の会社だけじゃなければいい。そんな会社が多い中で、後へ続く多くの会社に、日本の会社に迷惑を掛けてはならない。こういう素晴らしい経営者としての理念を私は知ることができました。

そして、武田さんが約束された通り、大成功です。その後何百という日本の会社が続々とヨーロッパの壁を乗り越えて、アメリカのお金を使わないで、ヨーロッパのお金を使って、日本の経済を守っていったのです。

2番目、利益の「利」。私はバイルートの所長もしていました。オイルダラー、石油ダラーとしてアラブに集まったたくさんのお金をを取り返そう。取り上げるのではありませんけれども、流れすぎた石油のお金を日本にまた還流して、日本でまた使えるように、そういう債券発行の仕組みをつくって、私は東芝の岩田さんを訪ねました。東芝は創立百周年を翌年に控えて、それにふさわしい独創的な資金調達を望んでいました。

岩田さんは、財務担当の副社長でしたけれども、私の提案を聞いて前向きな関心を示されました。

しかし、いままでアラブで転換社債という仕組みでお金を集めた会社はどこもなかったのは事実です。

アラブの人たちは、お金を貸して、それから金利をもらうということはしないのです。それだけおおらかなのか。そうではなくて、アラーの神さまがお金を貸して金利を取ってはならないと、そういうことがイスラムの教えの中にありますから、金利を受けとれるからという目的でお金を出してもらうことはできない。

そこで私は、世界ではじめてまったく新型の転換社債を考案して、株価の値上がり期待と、それが実現しない場合の保険として、100万円に5年間の金利相当額を上乗せして112万円で投資家の要求で買い戻す。それは、アラーの神さまが怒ったり腹を立てたりすることがないように、これは金利ではごぞいけません、値上がり益です、と。

では、岩國さん、あなたはアラーの神さまをだましてきたのですかということになりますが、べつにだましたわけではなく、アラブの人たちにも、そういう工夫を欲しがって時代が来ていたのです。だから、その解決方法として、金利に代えて、5年後に112%で東芝が買い戻す、または利益を反映して、株価が上がっていれば株式に換えるという仕組みを提供したのです。

そのためには、東芝が来年、再来年も利益を出してくれなければ困る。赤字ばかり続けているような会社の転換社債を投資家は誰も買いませんから。

岩田さんに聞きました。東芝の来年の利益の予想はどうですか。「来年は赤字です」。オイルショックで、日本中の会社が、東芝だけではありません、赤字の状況でした。

私はしつこく、また聞きました。「じゃあ、再来年はどうでしょう」。「再来年はもっと悪くなります」。

こんなことでは誰も東芝の転換社債を買う人はいません。絶望の中に私は思いきって、岩田さんに最後の質問をしました。「では、5年後はどうですか」。「5年後。岩田さん、5年後に東芝は必ずよくなる。私が約束する」。

その岩田副社長の言葉を私は担保にいただいて、そして、あのアラブの人たちが初めて日本の証券を買う、東芝の転換社債が発表され、発売された転換社債は30分で売り切れたのです。いままでは3週間かけても売れなかったものが、アラブで、東芝という名前もよかった、仕掛けもよかった、工夫もよかった、そして日本もアメリカやヨーロッパとの競争でいろいろと苦勞している、その苦勞している日本をアラブの人たちはよく分かってくれて、応援する意味で買ってくれたのです。たった30分で売り切れでした。

私は、東芝の岩田さんが来年も駄目、再来年ももっと駄目、しかし5年後には、私は確信を持っている。その確信をいただいて、それを担保にした。こういう利益というものについて、非常に正直に、赤字は赤字、しかし、5年後には必ず利益を出してみせます。そういう利益本意の経営がきちんとできなければ、会社は長続きすることができません。

3番目に「人」。人情、人間性。京都にオムロン立石という有名な会社がありますね。オムロン立石の創業者、立石一真さん。私はかばん持ちをして、立石さんは英語を話されませんでしたから、ロンドン、パリの銀行へ、かばん持ちとして、通訳もして、そして、立石さんに随行しながら、オムロン立石の説明をして歩いたのです。そして、ヨーロッパで株式の預託証券という制度を作り、その第一号としてロンドン取引所に上場することができました。

その立石さんが、私にいつも教えてくださったこと、立石さんが書いてくださったその言葉を私の名刺入れに入れて、それから50年間近く、私は一度も

手放したことはありません。50年間、立石さんの言葉とともに私は世界中を歩きました。何という言葉が書かれていたか。「最もよく人を幸せにする人が、最もよく幸せになれる」。

いいですか。「自分だけが幸せになりたい。人より先に自分が幸せになりたい」。誰もが考えていることです。けれども、自分が幸せになる前に、人を幸せにできる人。その人こそ、最も幸せになれる人なんだ。立石さんは、私たちにそういつて聞かせてくれました。

立石さんは、大分に工場をつくったとき、ある特別な会社をつくりました。体にいろいろな障害のある人、あるいは、知的にも障害がある人。気の毒なことです。そういう障害のある人を優先して、その社員として採用する。そういう変わった会社をおつくりになったのです。

ほかの会社には、なかなかできないことです。障害のある人は優先的に不採用とする。そういう会社がたくさんある中で、立石さんは、障害のある人こそ優先して採用する。そういう人間性のある経営者だったのです。その経営の精神は、これからはますます必要だと思います。尊敬される会社になるために、そういう経営哲学、人間哲学というものを尊重すべき時代を迎えているのではないのでしょうか。

そして4番目、「情」。いま情報化社会ですね。アメリカの情報は、次の日にはすぐ日本に伝わってきます。情報化社会の競争に勝つためには、人より先に情報を手にすること。手にするだけでなく、その情報を活かすこと。その二つができなければ駄目です。その典型が日本の商社です。

武田薬品の欧州第一号転換社債発行の仕事が1963年に終わって一か月後に、今度は同じく大阪の伊藤忠の本社で仕事をしました。武田薬品で3か月仕事をして、そして、その次の3カ月は商社。あ

の商社というのは、日本にしか存在しないのです。銀行はどここの国にもありますね。電気メーカーもどここの国にもあります。商社というのは、お金があるわけではない、担保もない、工場もない、製品もない、何にもない。そんな会社を誰が信用してお金を貸してくれますか。困りました。

ヨーロッパの銀行や保険会社や、投資信託を全部集めて、この会社には工場がありません、資産もありません、製品もありません、そんなことを言ったら、誰もその会社の債券を買って、投資をする人はいなくなる。

そういう難しい中では、情報というものが資産です。そして、越後正一さんは、伊藤忠の当時の社長としてヨーロッパの投資家団の要求を受け入れました。伊藤忠が持っている資産、株式、いろいろなよその会社の株式がたくさんあります。それを見えざる資産として、力として、多くの企業とネットワークを組んで情報源として活用している。それを説明し、そして、その15年間の間、その資産、他企業の株式を処分しない。利益が出ていない時に無理な赤字配当をして会社の財務体質を弱くしてはならない。そういう特別な担保、特別な約束を越後正一さんは受け入れて、その社債発行が決まったのです。

そういう前例のない環境の中、自分の会社のために、そして、自分の会社の強みというものを世界中の人たちに知ってもらうために、三菱商事でもなく、三井物産でもなく、丸紅でもありません。武田薬品の次に、伊藤忠が二番バッターとして、そしてこれも成功しました。それから日本の商社の債券発行が容易になったことは言うまでもありません。

こういう「義利人情」を大切にします。こういう会社の例は、今日この会場にいらっしゃる皆さんの中にも、会社を経営された、役員をされた方も多くいらっしゃると思います。

会社、会社と言いますけれども、日本人の平均寿命は世界で一番長いと言いましたね。女性は86歳、男性は79歳、世界一長い。では、日本の会社はどれぐらい長生きなのか、皆さん、ご存じですか。日本の会社は、世界で一番長生きなのです。人間も長生き、会社も長生き。どれぐらい長生きなのか。200年以上続いている会社は、世界で5600あります。そのうち日本はどれぐらいあるのか。

日本には3200の会社、世界の長寿会社の半分以上が日本なのです。その次は、ドイツとか、オランダが続いています。アメリカはゼロです。なぜゼロなのか。200年前に、やっと国ができたばかりですから、200年以上続くということはありません。

日本は、歴史も長い国で、200年以上続いている会社が3200もある。その中で、世界で一番長生きしているのは、どこだと思いませんか。大阪に、1433年生き続けている会社があるのです。それは金剛組という建設会社です。聖徳太子が四天王寺をつくる時に、百済の国から建築者を招かれまして、その百済の建築者が残ってつくったのが金剛組。1433年も続いています。

人間も長生き、会社も長生き。日本では会社がこんなに長生きしている。世界の国がそれを驚異の目で見ています。なぜ日本の会社は長生きできるのか。それは、日本の中で、働いている人が会社を大切にします。お客さんも会社を大切にします。国全体で会社を大切にします。そういう一つの考え方、文化、伝統というものがあるから、日本では会社が長生きできるのです。

これは日本の強みです。どんな災害があっても、必ず会社も人も長生きできる。そういう長生きの思想、そして、会社を大切にします。会社を大切にすることは、会社がお客さんを大切にします。お客さんも、お返しとして会社を大切にしてくれる。こういう素晴らしい国なのです。日本がそれを誇りとし

て、これからの日本の再生をしていくべきだと私は  
思います。

## VII 東洋の思想と哲学が地球を救う

私はいろいろな会社に勤めて、ニューヨーク、ロンドン、パリ、世界の三大都市に全部住んできました。外国に20年間いて、いろいろな国を見てきました。会社を見てきました。国も、町も、人も。そして、私の結論は、日本の持っている、お金に代えられない強さがあるということだと思います。どういうことか。

いま、自然を大切に、環境を大切にと言いますね。環境の時代です。日本人、見てください。山にも川にも草にも木にも、どこにも神さま仏さまがいる。私たちは小さいときから、そのように教えられ、そう信じてきました。森の中にも神さまがいる。

ヨーロッパに行ってください。ヨーロッパの子どもたちはどういう童話を聞いているかという、森の中には悪魔がいる。それは、ヨーロッパの童話によく出てきますね。日本では、森の中に神さまがいる。神さまと悪魔の大違い。

「山川草木悉有仏性」、これは、大乘仏教の中に出てくる有名な言葉です。山にも川にも、どこにも仏さま、神さまがいらっしゃる。そういう自然を大切にする。それは私たちが小さいころから、ずっと教えられてきたことではありませんか。

そして、山や川や草や木を大切にするだけではなくて、動物も大切にします。イギリスでも動物をかわいがる。しかし、日本人はかわいがるだけではなくて、動物に働く喜びも与えるのです。ライオンが歯磨き粉をつくったり、キリンがビールを売ったり、ゾウがお湯をわかしたり、タイガーがお湯を温める。ペリカンが荷物を運んできたり、クロネコはお中元を運んできたり。

見てください。みんな僕たちも働いているんだという、あの喜んでいる顔を見てやってください。どこの国がそういうことをやっていますか。僕たちも生きているんだよ、僕たちも人間と同じように働いているんだ。動物にも働く喜びを与える。これこそが、命を大切にする、本当のかわいがり方です。

人間と同じように、生きる喜びを、生きるものみんなに与えている。皆さん、そう思いませんか。これは、世界のどこの国にもない、私たち日本人の財産です。強さになっているのです。

私は出雲市長になったときに、全ての校舎を木づくりの校舎にしました。市長になった最初の日の9時30分に、私は部長から書類を受け取りました。それは、コンクリートづくりの素晴らしい中学校の建設計画書です。私はそれを破らせました。

学校の「校」という字は、木が交わると書いてあります。いまは石が交わっている学校ばかりです。今度、当用漢字を変えるときに、石偏に交わると、あの字を変えなければならない。そうしないと、子どもたちが手を挙げて、「先生、どうして学校の校という字は、木が交わると書いてあるんですか」。私は出雲の子どもには、そういうばかな質問をさせたくありません。木が交わっているから、学校の校はこういう字を書くんだよ。木のぬくもり、木の香り、木の柔らかさ。これこそが子どもたちの性格をまるやかにしています。

静岡大学の農学部の研究結果にも、それはちゃんと出ています。木の犬小屋、コンクリートの犬小屋、別々の犬小屋で同じイヌのきょうだいを育てると、木の犬小屋で育ったワンちゃんの方が、はるかにいい性格に育つ。

イヌでさえと言うと、イヌに対して失礼ですけども、ましてや人間の子。私は出雲の子どもは、いい性格の子に育てたい。だから、木づくりの校舎に変えさせました。私は6年間、出雲市長をやりま

したけれども、一度も私は市長のはんこをコンクリートの建物のために押したことはありません。学校でも、公民館でも。

公民館も地区によって、時代が違います。稗原(ひえばら)村は、室町時代の名前ですから、室町時代の建築様式。塩冶地区は、『塩冶判官高貞』という有名なお芝居が、元禄の時代に上演されましたから、元禄時代の建築様式にしました。地区の歴史にふさわしい、日本の建築様式。木づくり、触ってみたいくなる、肌に触れてみたいくなる、そういう木づくりの建築です。

ドーム球場も木づくりです。高さ48メートル。出雲大社は、いまは復元されて24メートルですが、昔の出雲大社は48メートルあったといわれています。昔の高さ48メートルに敬意を表し、私がつくった出雲ドームの高さは48メートルで止めてあります。

今度出雲に行ってみてください。出雲大社を見て、昔の出雲大社は、どのぐらいの高さだったのか。出雲ドームの高さを見てください。それが昔の出雲大社の高さになっています。木づくりの文化をしっかりを残していく。それは、東京、大阪、名古屋にはできないことです。

木を大切にするあまり、私は木のお医者さんまでつくりました。人間が病気をしたら、お医者さんがいる。動物が病気をしたら、獣医さんがいます。木にも命があります。その木には、お医者さんがいない。私はおかしいと思いました。命のあるものには全部お医者さんが要る。だから、樹木の樹、「樹医さん」をつくりました。

10人の樹医さんが試験に合格して、そして、庭の木、道端の木、この木は病気じゃないか。元気がない。樹医さんがすぐやってきて、木の診断をし、手当てをして、そして、木は元気になる。

たったそれだけのことで、小さな子どもたちにもすぐに分かります。木のお医者さんだよ。木にもお

医者さんがいるということは、木にも僕たちと同じような命があるということが、すぐに分かるのです。

そういう樹医制、農林省が出雲市がやったことをまねして、いま1700人の木のお医者さんが日本にいます。世界のどこに木のお医者さんを持っている国がありますか。日本だけです。1700人も、この国の中に木を守るお医者さんがいるのです。木にも命がある。緑を守る、環境を守る、それを一番分かりやすく子どもたちに分からせるのが、木のお医者さんということです。

そして、私は出雲市長のときに、新しい地図をつくりました。世界地図というのは、いろいろな国の地図を貼り合わせていますが、道路があることになっているのに、その国に行ってみたら、いつの間にか道路がない。湖があることになっているのに、湖がいつの間にか消えている。森の絵が描いてあるけれども、森がいつの間にか枯れて砂漠になっている。ある国、どの国とあえて言いませんけれども、ある国の場合には、自分の国を攻めてこられることがないように、わざと間違った地図を貼り付けます。

そういうことがないように、地球を守るために、一番正確な、宇宙衛星で撮って、新しい世界地図ではなくて、地球地図というものをつくる。それを提案し、13の国の代表が出雲に集まり、『出雲国風土記』に倣って、世界の風土記、「地球地図」をつくる。

13の国、ロシアも、中国も、アメリカも、来ました。そして、13の国が1994年に出雲市で「出雲宣言」を発表し、いまでは180の国が参加して、地球全体が新しい地球地図に変わっていきます。正確な地図があるから、地球のお医者さんが診断することもできるのです。

地球地図をつくるだけではありません。日本は世界の警察にはならない。世界の軍隊にもならな

い。では、日本は何をするか。私は、日本は「地球のドクター」になるべきだと思うのです。そう思いませんか。

日本人こそ、地球に命がある、木にも命がある、山にも命があることを一番知っている民族です。日本に一番ふさわしい役割は、警察になることではありません。軍隊になることではありません。日本に一番ふさわしい役割、しかも、日本にしかできない役割は、地球のお医者さんです。地球のお医者さんを日本が引き受けるのです。

戦争のときには一番出足が遅いかもしれない。しかし、戦争のないときに、黙々といろいろな森を守っている、川を守っている。地球が守られているのは、あの日本という国があるからだ。そういう尊敬される国になろうではありませんか。

## VIII おわりに

皆さん、ここに私の書いた「大阪ヒルネッサンス」という随筆があります。「ルネッサンス」という言葉がありますね、大阪、関西、これをまとめて、大阪はちょっと昼寝が長すぎるのではないか。やるべきことをやらない。そういう大阪人は駄目だという期待を込めて、私は、「大阪ヒルネッサンス」。

昔の武田長兵衛さん、越後正一さんが活躍したころの、あの往年の輝きを取り返していただきたい。そういう随筆のコピーを皆さんに差し上げます。東芝の岩田さんのことも書いてあります。お帰りのときに、必ずお持ち帰りください。

そして、サムスンと私との出会い。サムスンのハングルの言葉で出ていますけれども、その中でたった一人、私が日本人として登場し、サムスンは、日本人の岩國さんから、サムスンの改革の仕方を教えてもらったという、大変私にとっては名誉なことです。

それから、私の著書『続・蔵出し一月三舟』。この講演会は限られた時間ですから、皆さんにもっともっとお話したい、私が見てきたもの、聞いたこと、考えたことを知って頂きたいと思って、副読本として、1冊千円でお分けしております。

この表紙は、天皇陛下が行かれたアメリカの大学です。トーマス・ジェファソンという3代目の大統領が、彼のふるさとバージニア州という、きれいなところに大学を建てています。私はそこの客員教授を1988年からつとめております。

天皇陛下は、アメリカに行って、そして、民主主義の原点であるこのバージニア大学へ、トーマス・ジェファソンのお墓に深々と頭を下げて、お礼をされました。戦争に敗れた日本では、天皇の政治的な地位は失われました。それは、民主主義という新しい制度に変わったからです。国民が主権です。天皇陛下は、自分の地位を下げることになった民主主義、その生みの親と言われているトーマス・ジェファソンのところへ行ってお礼を言われたのです。

アメリカ人はびっくりしました。本当だったら、お礼など必要ではないはず。それが普通の人間の考えです。ところが逆にそこへ行かれて、そして、日本の国民を代表して、日本に民主主義をもたらしてくれた、そのトーマス・ジェファソンのお墓に感謝されたのです。そのことをアメリカの新聞は驚きをもって報道しました。日本の天皇陛下の心の大きさとこのものに。

その天皇陛下は、いまでもお怒りになったことがないと私は思いこんでいました。国会図書館で調べました。宮内庁で調べました。天皇陛下がお怒りになったことがあるのか。いつ、どういうときに、どのようにしてお怒りになったか。天皇陛下をお好きな方は、この本の中で勉強してみてください。

特に、これは国会時代に書いた随筆ですから、私は国会の中に座って、いろいろな政治家の話

私がどんなふう判断したのか、私と一緒に国会の中で一日体験入学をしていただいている気持ちで、この本をぜひ読んでみていただきたいと思います。

大変長い時間、時間をオーバーしてしまったかもしれませんが、小鳥たちとともに、お暑い中、ご静聴いただきまして、心から感謝いたします。ありがとうございました。